

2023年3月期 通期見通しについて

代表取締役社長執行役員
齋藤 昇

2023年3月期 連結業績及び配当金見通し

(億円)	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 業績予想 (2022年8月発表)	2023年3月期 業績予想 (2022年11月発表)	業績予想対前期比	
				増減	増減率(%)
売上高	19,021	22,000	22,200	3179	16.7
営業利益	1,668	1,850	2,000	332	19.9
営業利益率	8.8%	8.4%	9.0%	+0.2 pt	-
税引前利益	1,725	1,900	2,000	275	15.9
当期利益	1,313	1,450	1,470	157	12.0
1株当たり利益(円)	346.44	382.54	390.35	-	-
配当金	中間：100円(33.3円) 期末：45円 年間：- (78.3円) * (株式分割後)	中間：53円 期末：53円 年間：106円	中間：53円 期末：53円 年間：106円	-	-
為替	対ドルレート	112.33	120.00	135.00	-
	対ユーロレート	130.53	130.00	137.00	-
固定資産の取得 (設備投資)	2,913	3,000	3,000	87	3.0
減価償却費	1,770	2,000	2,100	330	18.6
研究開発費	1,653	1,900	1,800	148	8.9

2023年3月期の市場予測

Production Trend (Unit: Mil. unit)	5/11公表		11/1 最新予測
	FY2022	FY2023 (YoY)	FY2023 (YoY)
Automobile*	79	83 (+5%)	84 (+6%)
<i>therein</i> xEV	10.1	14.4 (+43%)	15.4 (+52%)
Smartphone	1,319	1,319 (±0%)	1,184 (-10%)
<i>therein</i> 5G Smartphone	586	663 (+13%)	620 (+6%)
HDD	250	231 (-8%)	161 (-36%)
<i>therein</i> Nearline	75	77 (+3%)	67 (-11%)
Notebook PC	258	240 (-7%)	205 (-21%)
Tablet	165	152 (-8%)	147 (-11%)

*Automobileは商用車を含む台数

第3四半期の売上高増減イメージ

(億円)

セグメント 区分	2023年3月期 第2四半期実績	2023年3月期 第3四半期予想 (対2Q)
受動部品	1,527	△1%~△4%
センサ応用製品	459	±0%
磁気応用製品	547	△14%~△17%
エナジー応用製品	3,423	±0%
その他	159	—
合計	6,115	△3%~±0%

為替前提

為替レート \$/Yen

138.20

135.00

為替レート EURO/Yen

139.39

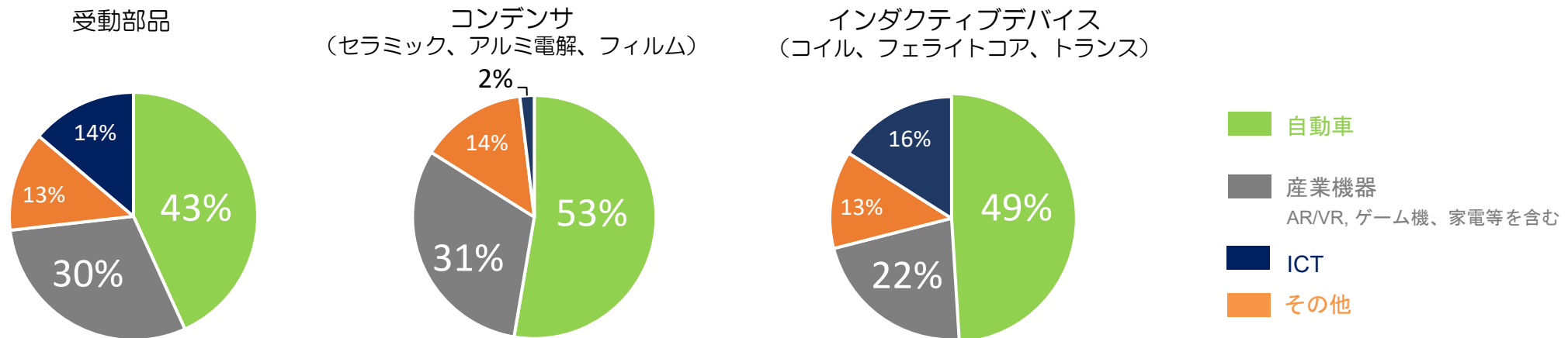
135.00

今後の施策のポイント

●受動部品事業

- 車載（ADAS、環境対応車）、省エネ関連需要を取り込む製品ポートフォリオの強化を継続
- 期初発表のセラミックコンデンサの増産投資は予定通り実施
 - 高温保証、高電圧対応、安全設計樹脂電極
- EV、再生可能エネルギー用途のフィルムコンデンサの増産
- 車載ネットワーク用EMIフィルタ、電源系インダクタの増産

市場別売上高比率（2023年3月期 2Q実績）



今後の施策のポイント

● センサ応用製品事業

- ICT市場向け磁気センサ（TMR）の増産
- 自動車向け温度・圧力センサ、磁気センサ（TMR）の販売を拡大
- MEMSセンサの顧客基盤、アプリケーション基盤の拡大を推進

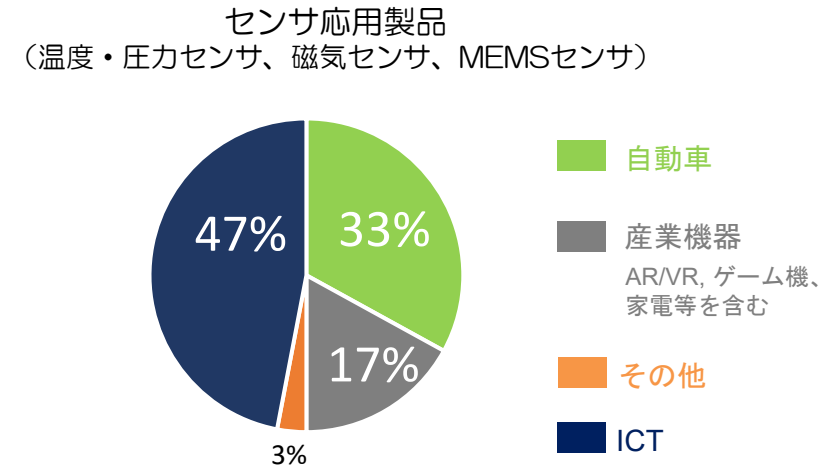
● 磁気応用製品事業

- 磁気ヘッド：MAMRヘッドの拡大、次世代技術HAMRの開発継続
- マグネット：生産性の改善の継続

● エナジー応用製品事業

- 中型二次電池市場向けCATLとのJVは予定通り進捗
- エネルギー供給懸念から家庭用蓄電システムの需要が拡大
- 標準電源ビジネスの更なる拡大

市場別売上高比率（2023年3月期 2Q実績）



この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は、以下のページに後日掲載いたします。
https://www.tdk.com/ja/ir/ir_events/conference/2023/2q_1.html